

—あなたは「あなたらしく」でいい

ヒロコさんは6年前から「心の宅急便」と銘打った講演活動を行い、これまで全国の70校以上を訪れた。この日は若松区の5小中学校の児童生徒たち約530人が耳を傾けた。

ヒロコさんがいじめ問題に関わったのは、帰国子女だった娘2人のいじめ体験がきっかけだった。

「思春期の子どもにとって、仲間はずれや嫌がらせのきっかけは、本当にささいなこと。誰にでもそんな経験があるはず」

中学生だった次女は、友人関係をめぐっていじめを受けた。後ろ向きな言葉をつぶやいたり、つらそうな表情をしたりする次女。

「それでも次女は負けず、毎日同級生に『おはよう』と声をかけ続けた」

「いじめは少しずつ解消されたけれど、次女は人を信じたり、好きになったりするのを拒んでいるようだった。そのとき、私が伝えたのは『あなたを信じている人はいっぱいいる。自分らしく生きたい』という言葉だった」

次女は今、一児の母とし

ヒロコ・ムトーさん 小中学生に講演

て幸せに暮らす。

「人生はつらいこともあるけれど、大切な人を信頼する勇気を持続けてほしい」

視力の低下や大病と闘いながらも、手のひらに乗るほどの「豆紙人形」を88歳から独学で始めた、母マサコさんの生涯も紹介した。マサコさんは、2006年に93歳で亡くなるまでに、300近くの作品を生み、フランスでの個展では、当時のシラク大統領に作品を贈って話題にもなった。

「母は『片目は見えなくても、反対の目は見える。私には作品を作る手もある』と、前向きに生き抜いた。病を嘆くことなく日々感謝していた」

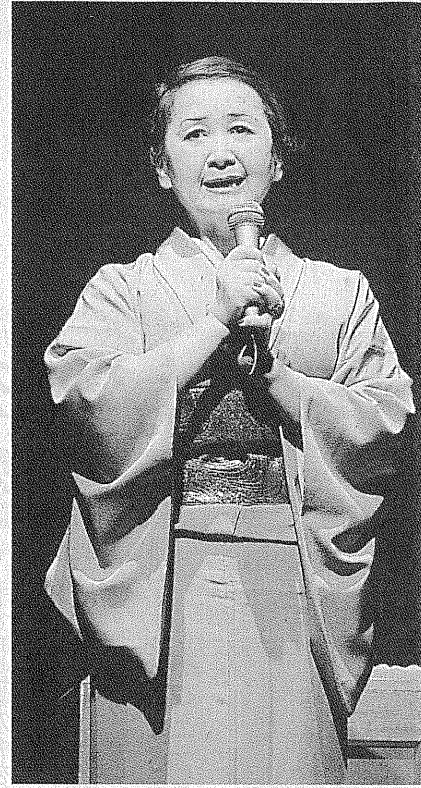
ヒロコさんは昨年、マサコさんが闘病中に書きためた雲の水彩画集を上冊の本にまとめた。

「虹が見えたり、夕焼けに染まる空だった。母は毎日の移り変わりを、人生そのものを、楽しんでいた。みなさんも、母のように希望にあふれた毎日を生きてほしい」

(大庭麻依子)

若松

全国の小中学校を訪問し、子どもたちにいじめ防止を訴える講演活動を行っている作家のヒロコ・ムトーさんが14日、若松区の若松市民会館であった。自身の娘が経験したいじめのエピソードや、北九州出身で紙人形作家の母マサコ・ムトーさん(故人)の人生に触れ、「つらいことがあってもあなたは『あなたらしく』でいい。生きる喜びを知って」と子どもたちに語りかけた。



「いじめに遭ってどんなにつらくても、人を信じて、勇気を持ち続けてほしい」と語るヒロコ・ムトーさん